表題	葬儀士の車載品		
著者	高見晴彦(取り纏め)		
作成日	2024年1月17日	最終更新	2024年4月28日

キリスト教会葬儀研究所(CCFI) <http://www.ccfi.jp/>

2024.01期テーマレポート

[実務者向け]

葬儀士が日常的に営業車等に積載している道具類を通して、葬儀施行における対応力を向上させるためのアイデアを共有します。

葬儀士の車載品

多く物事においては入念な下準備を積み重ねて本番に至ることが望ましいものですが、こと葬儀においては限られた時間の中で必要な手順を次々と熟していかねなければならないことも少なくありません。そのため葬儀業においては感動的な演出やサプライズ等追加的な価値創造を志向することよりも先んじて、現場の事情や顧客の要望の変更に臨機に対応したり、ミスを適切にカバーする等、様々なハプニングを想定しリスクを最小化することが第一目標となってきます。そこで今期はこのようなハプニングへの対応力を高めるために、葬儀士がこれまでの経験の中から培ってきた「営業車等に積載しておく便利な物」を通してアイデアを共有していきたいと思えます。

なお「あると便利」とは言っても、車に積める量には自ずと限界がありますから、様々な用途に対し道具を兼用したり転用するというアイデアも大切です。

▽通信・記録・移動

●携帯電話用ハンズフリー通話機器

葬儀実務上、会社の外線電話が携帯電話に転送されている場合や顧客・教職等から携帯電話に直接電話がかかってくる場合にはタイミングを選ばませんし、葬儀の日程によっては時間との勝負になる場合もあるので、取引先への移動中の発注等もありがちなことです。携帯電話を手に持って通話しながら運転することは法律違反¹⁾ですから、ハンズフリーの通話機器を車載しておくべきです。運転中の携帯電話使用が初めて禁止となった2004年からはしばらくの間は、充電コネクター等へ接続する有線ヘッドセットがハンズフリー機器の代表でしたが、現在ではほとんどの携帯電話が無線通信規格Bluetoothに対応しており、無線ヘッドセット等が主に使用されています。またBluetooth対応の埋め込み型カーナビゲーションシステムの機能として常設マイク及び車載スピーカーを通して電話ができるものも多く販売されており、携帯電話との連携により着信時に電話の画面を見なくともカーナビゲーションの画面に発信者が表示されたり、地図情報に登録されている電話番号から直接発信といったこともできるようになっています。

●携帯電気機器用充電器

現場が込んで出ずっぱりになると、携帯電話やハンズフリー機器のバッテリーが保たな

なくなってしまう場合もあります。電源のある適当な拠点で充電することもできない場合がありますから、それらの機器の充電器を車載しておくほうが良いでしょう。近年では携帯電話や各種機器(葬儀施行においてはBGM音源や記録用のデジタルカメラ等も想定されます)のほとんどがUSB端子から充電できますから、必要なUSB規格の変換器を併せて持っていればケーブルは1本で済むような場合も少なくありません。古くからあるシガーライターソケットから100V電源を取る機器を使用する他、近年はシガーライターソケットの代わりに、あるいは別口で初めからUSBソケットが搭載されており、ケーブルを直接差し込める仕様の車両も増えてきました。

●黒のボールペン、メモ用紙等

近年の携帯電話等は文字や音声によるメモ機能も充実してきましたが、臨時に短い情報をメモをするのであれば、やはりメモ用紙等に手書きするのが記録するのも確認するのも最速で便利です。長期保存する必要のある情報は手帳に、現場が終われば破棄するような情報は適当な大きさに切った裏紙等を使用すれば十分でしょう。またやや大きめの付箋等を用意しておき、走行中に確認したり目的地に到着してから直ちに処理するような情報はフロントガラスの隅に貼っておくというのも良いでしょう(貼りすぎると運転が危険ですのでほどほどに)。なお筆記具を黒のボールペンとしたのは死亡届の記入に転用できることが主な理由ですが、特にフリクション²ではメモに使用するにしても夏に車内が高温になった場合に薄れるおそれがあるため推奨できません。

●ETC機器、カード

病院等からの搬送や出棺時、寝台車に随走したり遺族の車を先導したりすることも少なくありませんから、有料道路を走行する際はETCを使用する方がスムーズです。ただし遺族の車を先導する場合、遺族の車すべてにETCが搭載されているか確認できていないのであれば、可能な限り現金/ETC両用レーンを通る方が良いでしょう。車間が開いてしまうだけならばまだしも、稀にETCを搭載していないにも関わらず、随走することに必死でそのまま料金所を未払いで突破してしまう遺族もいるからです。

●現金(特に千円札数枚、千円分程度の硬貨)

主に外の式場で施行する出張型葬儀社や、病院等からの一次搬送また打ち合わせ等を担当するスタッフは、式場や搬送先の周辺状況が不明のまま移動しなければならない場合があります。場所によっては急いで駐めた最寄りのコインパーキングが高額紙幣やキャッ

シュレス決済が使えず、また近隣にコンビニ等も無いため退出できない、という絶望的な状況に陥ることもあり得ます。また移動中の有料道路がETCに対応していないといった場合もありますから、使用しやすい額面の現金を財布とは別に最小限度常備しておくことが望ましいでしょう。ただし車上荒らし等の被害も考えられますから、高額な現金を車中に置くことは避けなければなりません。

▽遺体搬送・保全・衛生

- ・遺体用布団、布製担架シート、吸水シート等
- ・脱脂綿シート、ドライアイスパック等
- ・納体袋、浴衣、紙おむつ等
- ・化粧用具、チンカラー等
- ・使い捨てのマスク、ビニール手袋、キャップ、靴カバー、ヤッケ等
- ・手指消毒薬等

●ハンドクリーム

遺体処置をする葬儀士は手指等をアルコール消毒する頻度も高く、肌が荒れやすくなります。肌荒れによって手指に傷ができるとさらに感染症リスクも高まるため、こまめにハンドクリームを塗布しておくといいでしょう(手肌が弱い人は薬用クリーム等を用いるとなお良いでしょう)。ただし車載しているとはいえ塗布してすぐにハンドルを握ると滑るため注意が必要です(製品によっては比較的乾燥が早く、運転に支障が出にくいものもあります)。また遺体に装着されている結婚指輪等を外す際、ハンドクリームを塗り込むと簡単に外れますので、覚えておくると便利です。

- ・ティッシュペーパー、キッチンペーパー、タオル等
- ・ウェットティッシュ
- ・絆創膏、下痢止め等の常備薬、使い捨てカイロ、制汗剤等の季節用品

●枕、クッション、使い捨てスペーサー等

遺体安置に喪家の布団やベッドを用いる場合に枕がドライアイスの処置に適さないようなケースや、故人の背が屈曲している等で姿勢を安定させなければならないようなケースに備えて、処置に適した枕や姿勢安定用のクッション、スペーサー(2023.06期レポート参照)等を車載しておくると便利です。なおこれらが手元に無い場合、必要であれば喪家から

バスタオル等を借りて枕やクッションの代わりにすることもあります。

●敷き布団サイズの敷物類

遺体用布団の下等に敷くための敷物類には二通りの方向性があります。ひとつは安置場所の美観(遺体の取り扱いに対する手厚さ)を重視して厚手の絨毯類等を用いる場合、もうひとつは遺体からの体液漏出による家財の汚損を防ぐ等、実用性を重視して液体を通さないビニール等を用いる場合です。両者を重ねて使うことも有り得ますが、道具が多くなるために積載量・作業量の双方から現実的かは一考する必要があるでしょう。敷物は遺体用布団とセットにして積む方法もありますが、遺体の安置に喪家の布団を用いる場合にでも敷くことが望ましい状況もありますので、1枚は別に車載しておくとい良いでしょう。

▽打ち合わせ・式場・アフターケア

- ・小机、卓上十字架、蠟燭、聖書等
- ・打ち合わせ用品、パンフレット等
- ・骨壺、風呂敷、骨壺用手提げ袋等の予備、骨箸、納骨袋等
- ・記帳用具一式(芳名録・筆記用具・名刺受・芳名録用ファイル)
- ・汎用会葬礼状(個別氏名の入らないもの)
- ・ゴミ袋、無地のレジ袋(靴袋等に使用)、紙袋(会葬御礼品等に使用)等の予備

●工具類

葬式場の会館化が進んだ近年では需要は少なくなりましたが、過去の仏式等の葬儀では一般的に式場の幕張り等が必要だったため、空間を測るためのメジャー、胴縁(幕をピンで留めるための下地になる木材)を切るための鋸、胴縁等を結わえるためのロープ、ロープを切るカッターナイフ、長ピンを強く留めたり抜くためのパール付きハンマー、折れたピンを抜くためのペンチ、司会用音響機器類を調整するためのドライバーセット、またそれら工具や押しピンを納めるための腰袋等は葬儀士の必須アイテムでした。現在でも自宅葬等で家具を隠したり臨時に照明を吊したりするようなケースがあるならば、一揃い持っておくと便利な場合がありますが、大がかりな物は場所も取るため、いわゆる十徳ナイフ等で応用するのも良いかもしれません。

●乾電池

近年バッテリーを搭載している機器が増え、生活のシーンでは乾電池の使用頻度は減っ

ていますが、教会葬儀等出張が主となる葬儀の現場では音響機器等を中心にまだまだ電池を使用する場合があります。特に単三電池は式場備え付けのワイヤレスマイクの電池が切れていた時等に役立ちます。電池は長時間放置しておくとも液漏れ等が起こる場合もあるため、必要なときにコンビニ等で購入するというにしておいても良いのですが、店舗の少ない郊外の教会等で施行する場合は予め持っておくと安心です。

●養生テープ

養生テープとは主に建築現場などで用いられるもので、プラスチック（PET等）を基材としたいわゆるガムテープ類に似たテープです。一般的なガムテープ類に比べ粘着力が弱く、保護や仮止め等のために一時的に貼ることを主な目的として作られています。式場設営において粘着テープを用いるシーンは様々にあります（案内等掲示物を壁に貼る、躓き防止のために床に這った電気コードを覆う等）が、式場を借用して施行する場合には糊残りや塗装の剥がれ等をできるだけ生じさせないように、このようなテープを用いるほうが好ましいでしょう。特に教会は古い建物も多く、壁や床の塗装も剥がれやすくなっている場合もありますので、テープを貼る際には十分な注意が必要です。また参列者や故人の服に付いたペットの毛や綿等のゴミを取る場合にも使いやすく、ガムテープ類より生地を傷めにくいでしょう。

- ・ 車両整理用誘導灯
- ・ シャツ、靴下、ネクタイ、タイピン、靴等の予備

*1道路交通法 第71条第5の5項

*2PIL0T社(株式会社パイロットコーポレーション)の登録商標。ペンの頭等で文字を擦ると摩擦熱で消える。

*3本来のガムテープは水溶性の糊を塗布したもので水をつけて使用するらしく、現在広く言われるガムテープはクラフト粘着テープや布粘着テープというのが正式な名称であるとのこと。(参考:Wikipedia)